



仙台ユネスコ

<http://www.unesco.or.jp/sendai/>

発行：公益社団法人 仙台ユネスコ協会

会長 見上一幸

仙台市青葉区国分町三丁目1-1
(仙台第一生命ビル 5階)

電話 022-224-2581
FAX 022-302-3406

好評!!

「SALON&ZOOM講座」連続開催中!

コロナ禍の影響で、従来の集合型の活動・イベントが中止となる中、各方面で対策と工夫が重ねられています。当協会においても、新しい形での公益事業～少人数でのサロンとオンライン併用講座をスタートさせました。「SALON&ZOOM講座」です。

1回目2回目はZOOM操作を含めたオンライン運営に慣れるためのトライアルと位置づけ、参加者を限定して開催。7月にスタートし、9月末現在第5回までを終了しました。

今回は、第3回、第4回の報告です。

※動画を含めた詳細は、ホームページでも発信しています。併せてご覧ください。

<https://www.unesco.or.jp/sendai/news/>

◆◆◆ 開催趣旨 ◆◆◆

2030年をゴールとするSDGs（持続可能な開発目標）は、世界が目指す共通の目標として各国・各界で取り組まれています。仙台ユネスコ協会では2018年度からESD講座を開催し、啓発に努めてきました。今、世界を震わせている新型コロナウイルス感染症も、SDGsと無関係ではありません。こんな時こそ地球規模で考え、自分たちの行動を見つめ直す必要があると考えます。本当の豊かさとは？ 人間らしい生活とは？ 皆様と一緒に考えたいと思います。

第3回 SALON&ZOOM講座

「こころの音」 ■ 講師 シンガーソングライター 佐藤美佐子氏

2020年8月22日 / 参加者 Salon…14名 Zoom…10名 計24名

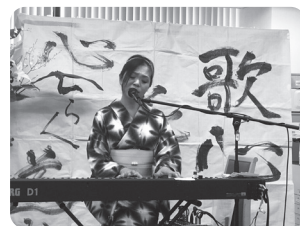
ピアノから音響機器まで自前で持ち込み、学校、病院、福祉施設等でライブ活動を続けている佐藤さん。テーマはいつも「こころの音」としています、とおっしゃるその歌声に、心を奪われる人が多いと言います。文化を通じた世界平和を願うユネスコの精神と、誰一人取り残さないというSDGsの理念を表現してくれるライブになりました。

生まれ育った地域を想う「ふるさと」、白石市の歌「一白（自作）」、人との繋がりの大切さ

を込めた「糸」、SDGs 持続可能な開発目標に通じる「瑠璃色の地球」、気仙沼の海岸の復興を願う「浜辺の歌」。トークも素晴らしく、佐藤ワールドに引き込まれた豊かな時間を過ごすことができました。

七ヶ宿町立七ヶ宿小学校の校歌を作詞・作曲した佐藤さん、中学校併設型小学校（小原学園）として生まれ変わった母校の校歌の制作も依頼され、地域の匂いのする校歌を作りたいと語っていました。地域に根ざし、歌い継がれる校歌が出来上がるのが楽しみです。

(内藤 記)



▲しっとりと、歌詞を大事に歌う佐藤さん。言葉とメロディーが心にしみてきました



▲ Zoom参加の皆さんは、それぞれの場所でゆったりと聴いているようでした



▲ 人数制限を設けたSalon会場

…これからの行事と催事…

第23回 ユネスコ子ども絵画展 ～絵で伝えよう！わたしの(町の)たからもの～

■日時：2021年1月19日(火)～23日(土)

■場所：東北電力グリーンプラザ・アクアホール

“11枚の書きそんじハガキでひとりがひと月学校に”
ユネスコ世界寺子屋運動にご協力ください。



書きそんじた郵便ハガキをご寄付ください。送れなかった63円ハガキは1枚につき58円の募金に替えることができ、11枚あつまれば、カンボジアではひとりがひと月学校に通えます。ユネスコ世界寺子屋運動にご協力ください。

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々により、1947年（昭和22年）7月19日、世界で最初の「民間ユネスコ協力会」として誕生しました。

第4回 SALON&ZOOM講座（東北地方ESD活動支援センター 共催）

「The future we want（私たちが望む未来） ～キリバスと今年の日本の夏から見えること～」

■ 講師（一社）日本キリバス協会代表理事 ケンタロ・オノ氏（対談）
東北地方ESD活動支援センター統括 井上郡康氏

2020年9月19日 / 参加者 Salon…15名 Zoom…10名 計25名

仙台ユネスコでのケンタロ・オノ氏の講演は2回目、7月の民間ユネスコ運動の日での講演を予定していましたが、コロナ禍で開催を断念、この講座が実現しました。

講座は3部構成とし、第1部でオノ氏の講演をいただきました。帰化した自国キリバスの現状と、年々極端化する気象現象とそれに伴う災害、加えて海洋での廃プラスチック問題の深刻さを訴えられました。的確な映像で視覚に訴えるパワーポイントと巧みな話術に引き込まれ、1時間があっという間に。深刻な現実には衝撃を受けつつも、SDGsに希望を見いだしているというオノ氏の力強さに感銘を受けました。

第2部は、東北地方ESD活動支援センターの井上郡康氏との対談をセッティングしました。キリバスを数回訪問しているという井上氏は、オノ氏に劣らずキリバスの魅力にとりつかれた様子で、継続支援している取組を紹介していただきましたが、問題の複雑さによる解決の困難さを感じているとのこと。最後に仙台ユネスコに期待することは何かとオノ氏に問いかけたところ、「仙台ユネスコは希望の一つです」との回答で、私たちに委ねられた形になりました。



▲ 熱く語る井上氏。お2人の信頼関係が伝わる対談の様子

第3部では会場とZoom参加者との意見交換を試みました。オノ氏の話をもっと広く伝えたいというオファーが目立ちました。

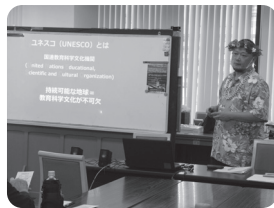
会場とZoomを音声と映像で結ぶために、支援センターの石木田さん、菊地さん、小泉さんのお力をいただきました。

ありがとうございました。

（内藤 記）



▲ 真剣にメモをとりながら聞き入る会場参加の皆さん



▲ ユネスコは希望と語るオノ氏

ユネスコ今昔物語 ～ 移転こぼれ話 ～

「世界地図」

平安時代の有名な説話集「今昔物語集」は、「今は昔…」で書き出されています。仙台ユネスコ協会にとって、「昔」とは僅か73年前のこと。今回の移転で、旧ユネスコ会館由来の物を整理処分することになり、その一つが金属製の世界地図でした。

旧会館の会議室に飾られていた物で解体し保存してきましたが、この度、瀬川満夫氏に引取って頂くことになり、お話を伺いました。



▲ 瀬川氏と会長

進行— 世界地図には「せがわ」という署名があったのですが、製作者でしょうか。

瀬川— 「アルミレリーフの世界地図」なので、自分（家族）の作品ではない。代々焼き版屋を職業としており、1984年の「民間ユネスコ世界大会」では「日本国憲法」を印刷した風呂敷を依頼され、出席者のお土産として配布されたのを思い出します。

進行— 「世界地図」の利用について、お考えを聞かせてください。

瀬川— 旧ユネスコ会館跡地（晩翠草堂）に「世界地図」を復元し、「青葉通り平和の鐘」を設置したいと願っています。

仙台空襲では土井晩翠の家も焼失し、千数百名の市民が犠牲となりました。ユネスコ憲章に「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と記されている。その思いを実現したいのです。

進行— 瀬川さんのお話（構想）をお聞きし、「世界地図」の新たな歩みを見守っていきたいと思います。ご協力ありがとうございました。

情報のひろば

昨秋から移転準備（保存・廃棄）を進める中で、「ユネスコ委託図書」「世界地図」「国旗」など、価値・由来など判断に迷う事物が多数出てきました。
①「世界地図」の製作者は誰…。②「国旗パレード」で使用した国旗（80以上？）の活用について…。③段ボール20個分の「ユネスコ委託図書（ユネスコライブラリー）」は、市瀬宮教大教授にリストアップ等を委託しております。④事務所には古い資料が荷造り状態で保管、その中には“お宝”が潜んでいるかもしれません。引き続き「ユネスコ今昔物語」としてお伝えしていきます。また、皆様からの情報も頂けますと大変幸甚です。（加藤記）

～ ユネスコ会員企業紹介 1 ～

【東洋ワークグループが取り組む社会貢献活動】



▲クリーン&クリーン(株) 洗浄工場

東洋ワーク株式会社（代表取締役社長・須佐尚康）はこの3月、若手社員を中心とし社内に「SDGs」運営委員会を立ち上げ、社内での推進活動を本格的にスタート致しました。現在、グループ会社東洋ワークセキュリティの社員を含む10人によるメンバーにて定期的に会議を重ね、「人材派遣業」、「警備事業」を主業務とする企業として、どのような社会貢献が出来るのか、「SDGs・17の目標」の何を取り入れ、実現化して行くのかを真剣に議論しております。既に8月には東洋ワークグループ経営方針発表会において経営人、幹部社員を前に、運営委員会立ち上げの趣旨を説明しました。今後は、3か年計画を立案し、会社へと提言、2030年で達成するために目標を掲げ、社員自らが運営して行く方針にて取り組んでおります。

弊社は、これまでもグループ企業と共に、数々の社会貢献活動を展開しております。中でも、障害者雇用を積極的に支援しており、展開も行っております。プラスチック

・・・ 東洋ワーク 株式会社



▲第5回Art to You会場風景

製品の洗浄を業務とする(株)クリーン&クリーンは、社員に多くの障害者を採用し、社員自身の実力が十二分に発揮できる企業としてまい進しております。

関連団体となります東北障がい者芸術支援機構は、公益社団法人の認可を得て活動。主催する「東北障がい者芸術全国公募展」は、障害者の芸術表現活動を支援し、障害に対する理解を含めることを目的としております。今年(2020年)公募展は第6回目を迎え、11月にせんだいメディアテークを会場に4日間、展示会を行います。この事業に関しては歴史を重ねるごとに、社会のみならずからも高い評価をいただいております。東洋ワークグループが経営理念とし掲げる社会貢献活動の一つとなっております。

私ども、東洋ワーク、及び各グループ会社は「地域と共に」歩み続け、社会のみなさんに信頼され、社会に貢献出来る企業を目指して、これからも社員全員で努力してまいります。

～ ユネスコ会員企業紹介 2 ～

【SDGsへの取り組み】・・・ ホテルメトロポリタン仙台



▲食育活動



▲地域の生産者との連携



▲みやぎの森林づくり



▼外観 本館

ホテルメトロポリタン仙台では、地域社会、国際社会の一員として、環境保全や社会貢献を通して持続可能な未来の実現を目指す『SDGs』の達成に向けた活動に積極的に取り組んでおります。

まず、食品ロスを削減するための取り組みとして、宴会をご利用のお客様（幹事様）に事前打ち合わせにて『30（さんまる）10（いちまる）運動』をご提案しております。「乾杯後30分」「お開き前の10分間」はお食事を楽しんでいただく時間としてアナウンスをしていただくようご案内し、ビュッフェスタイルの場合は、おひとり様分ずつ小分けにしてお料理を提供しております。

また、連泊でご宿泊いただくお客様の清掃は、ご希望によりシーツやリネン関係の交換を省略していただくよう呼び掛けております。これによりクリーニングで発生する有機洗剤などの使用を抑制することで環境保全につながります。

地球環境の保全と改善を目的として、東日本大震災に伴う津波により壊滅的な被害を被った海岸林の再生に対し、積極的に保全活動への参加を行っており、毎年「みやぎ

の森林づくり」プロジェクトへ参加し、宮城県女川町の海岸林の保全と育成を支援しています。

そして未来にわたって持続可能な森林管理につなげていきます。さらに、地球環境保護のため、プラスチック製ストローを廃止しトウモロコシを原料とする生分解ストローを導入。ゴミとして捨てても土中の微生物により最終的に水と二酸化炭素に分解され、焼却した場合でも有害物質が発生せず、地球温暖化防止にも有効とされています。

また、地産地消を推進し、レストランや宴会で提供する料理は地域の生産者と連携し、東北の食材を積極的に使用することで地域食材の魅力を発信。さらにホテルの調理人による食育活動として、地域の小学校で「食の安全・安心」とともに「食の楽しさと大切さ」を教える取り組みを定期的に行っています。

ホテルメトロポリタン仙台では、今後も『SDGs』の理念とする持続可能な社会への貢献を真剣に考え、同時に環境に配慮した「GOAL12-つかう責任」に対して真摯に取り組めます。

青年部だより 「今、青年部ができること～2つのZoom Meeting～」

「宮城ユネスコ子どもキャンプ」などほとんどの活動が中止となったコロナ禍で、青年部の活動をどうしたらよいか、試行錯誤してきました。そもそも、学生自身がWeb授業中心の学生生活で、新会員の勧誘もできない状況です。

そんな中でも、青年部活動を継続したいとの思いから、まず始めたのが、FacebookやTwitterによる会員紹介です。そして、今、実施しているのが、2つのZoom Meetingです。1つは青年部同士、もう1つはイタリアのベルガモ大学で日本語を学んでいる大学院生とのミーティングです。青年部会員からの報告です。



▲青年部 Zoom Meeting

Zoomを使って、青年部のメンバーで集まりました。コロナという未曾有の事態の中、ユネスコ青年部としてどんな活動が出来るか、来年のキャンプはどうか、など今後のことを話し合いました。中高生から、何人か青年部に興味があると声掛け

いただいているので、彼らの期待に応えられるよう、知恵を絞ります。

今後も定期的にオンライン上でミーティングを行う予定です。詳細については後日、Facebookなどで告知しますので、仙台ユネスコ青年部に興味のある方は、是非気軽にお声掛けください。

(入江陸太郎 記)

青年部、9月25日にイタリアの大学院生とzoomで国際交流をしたんです！ベルガモ大学で日本語を教えている先生と役員の方が大学時代のお友達だったそうで、今回の企画が実現しました。ご縁と繋がりに感謝です。お互いの国の言葉で挨拶したり、好きな事、得意な事を日本語でお話しました！私はイタリア語も英語も全然ダメダメですが、こうやって他国の方と交流できて久々にわくわくしました。

ベルガモがどんな所か気になったのでYouTubeで検索したら、街並みを見る事が出来ました。

新市街地と旧市街地があり、私は石畳が素敵な旧市街地に心惹かれました。是非検索して見てほしいです。ベルガモの学生さんたちは日本が好きで語学を学んでいるそうですが、そういう言葉を聞くとなんだか嬉しくなりますね。アニメが好き、歌が好き、中には日本人の性格が好きという方もいましたよ！こういう交流が関心を生み、平和への道に繋がっていくのではないかとしみじみ感じました。是非ともこれで終わりにせず、この繋がりを大事にしたいなと思います。

(大學潤 記)



▲ベルガモ大学とのZoom Meeting

宮城県予選「第55回 国際理解に関する弁論大会」



2020年度 第67回「国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール」に向けて、宮城県予選(第55回 国際理解に関する弁論大会)の最終審査会が9月15日、仙台白百合学園高等学校を会場に開催されました。主催は、宮城県高等学校国際教育研究会・外務省(公財)日本国際連合協会。

例年9月に弁論形式で開催していた予選大会でしたが、今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止という観点から「作文形式」で実施することになったので、審査員は事前に全員分の作文を

下読みし、採点をして審査用紙を持って臨むことになりました。作文のテーマは、国際教育の目的に沿って、特に国際連合について述べているか、

- ① 国際創設100周年の2045年、よりよい未来を迎えるための提案
 - ② もし私が国連事務総長だったら、持続可能な開発目標(SDGs)の達成のためにこうします
 - ③ 国際社会の課題解決に、国連をはじめとする国際機関が果たす役割
- という点。

各高校から25名の生徒さんの作品の応募がありました。どの作品もテーマに沿って吟味された内容でしたが、審査の基準にどのくらい自分の言葉で自分の体験を生かして考えているかで選ばせていただきました。

ユネスコ賞は、宮城県立仙台二華高等学校の宮田英之さんが受賞されました。(小泉知加子 記)

胡蝶蘭のプレゼント ～仙台第一生命様より～

錦町から国分町へ移転して5ヶ月が過ぎました。正面には仙台市役所本庁・二番丁通りを挟んで宮城県庁。周辺は青葉繁れる樹々に囲まれた仙台中心地に建つ10階建の仙台第一生命ビル(通称:黒ビル)の5階がユネスコ新事務所です。事務室に入って目に飛び込んでくるのは豪華な胡蝶蘭の鉢(写真)です。



7月初旬、仙台第一生命の屋代一英支店長様が移転祝いとしてご持参下さったものです。事務所を始め、重ね重ねのご厚意に筆舌に尽くしがたい謝意を覚えています。

私達は胡蝶蘭の可憐な姿に癒されながら、仕事に励む日々を過ごしております。(加藤 記)

須藤さん「お別れ会」

10数年間の長きに渡り、当協会の事務を担って下さった須藤和枝さんが7月末で退職しました。大町のユネスコ会館時代から、錦町庁舎～仙台第一生命ビルへと事務所の移転を見守り、誰よりも仙台ユネスコ協会の内情に精通し、皆さまから頼りにされてきました。「お別れ会」はコロナ禍を配慮し内輪で行いました。須藤さんのこれまでのご苦労に深く感謝し、今後のご活躍とご健康を心より祈念致します。



なお、新しい事務員は山崎歩さんで、週2回(火・金)の勤務となります。(加藤 記)

会員募集 あなたも参加しませんか!

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、世界で初めての民間ユネスコ運動の団体として、1947年7月19日に誕生しました。あなたのご参加をお待ちしています!

団体会員(一口)年会費	20,000円
個人会員(一口)年会費	5,000円
青年部会員(一口)年会費	2,000円

仙台ユネスコ協会 会員数

団体会員	93
個人会員	168
青年部会員	18
合計	279

(10月末現在)

【編集委員】

松坂 宏造 小泉知加子
赤塚 吉雄 伊藤 律子
岩山 浩一 菊池 健一
佐藤 皇季 千葉 雅保

【編集後記】 仙台ユネスコ会報464号をお届けします。

8月から11月までの活動報告をまとめました。集まる会合がままならない中、「ズーム講座」オンライン併用講座が好評です。9月末、第5回を開催しました。

仙台ユネスコ協会是一人ひとりが思いやりの活動をしています。お仲間に加わって一緒に活動しませんか? (仙台ユネスコ会報編集長 小泉 知加子)